

ZENFAUREN

全国国立大学附属学校連盟・全国国立大学附属学校PTA連合会

附属だより
第111号



全附連ホームページ
http://www.zenfuren.org/

～子どもたちとこの国の未来のために～

LINEUP

全附P連
平成30年度新体制
委員会活動・活動方針

2～3面



全附P連 平成30年度総会開催

お茶の水女子大学
6月2日^土

第66回全国国立大学附属学校PTA連合会（全附P連）総会が、平成30年6月2日、お茶の水女子大学共通講義棟201にて開催されました。その模様を全国の会員の皆様にお伝えいたします。

全議案、満場一致で可決

今年の総会は2部構成で行われ、第1部では、平成29年度の事業報告、収支決算、会則の変更、平成30年度の役員について審議され、満場一致で可決されました。その後の休会中に平成30年度の新理事・監事による第1回理事会を開催。呉本啓郎会長が再選（全附P連として10年ぶり）され、新会長から事業計画案と予算案の説明があり、新体制がスタートいたしました。

全附P連として10年ぶりに 呉本会長（大阪教育高 平野校舎）が再選

つづいて第2部が開催され、ご来賓を代表して文部科学省高等教育局大学振興課教員養成企画室長の高田行紀様からご挨拶をいただいた後、全附P連表彰が行われ、会長賞を受賞した北海道教育大学附属特別支援学校の「父母と先生の会」による活動事例発表が行われました。その後、子どもへの貧困対策（内閣府より）、財政教育プログラム（財務省より）、地域学校協働活動（文部科学省生涯学習政策局より）、オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会と全附連との連携（同組織委員会より）、全附P連創立65周年ビジョン、いじめ対策プログラム、奨学金制度の調査報告、あいサポート運動、全附P連PTA研修会など、各活動についての現状と今後についての報告がなされました。（三浦 享）

附属学校
連絡協議会
開催
「改革へ向けて…」
4学校園事例報告紹介

4面

寄稿
国立大学附属学校の教職員
及びPTAに期待すること
文部科学省
初等中等教育局教職員課課長
柳澤好治様

5面

寄稿
知れば知るほどナットク！
再発見！「附属の魅力」
鳴門教育大学学長 山下一夫氏
新潟大学附属
長岡中学校校長 土佐幸子氏

6面

平成29年度全附P連表彰紹介……5面
「財政教育プログラム」紹介 財務省 上田稔市様……6面
「金融教育プログラム」紹介 金融庁 本田幸一様……7面
平成29年度全附P連助成金事業報告……7面
第9回全国大会ご案内・あいサポート運動……8面
全国国立大学附属学校教育後援会連絡協議報告……8面

その他の紙面

附属学校園の使命と目標



文部科学省
高等教育局大学振興課
教員養成企画室長
高田行紀様

4月に現職に就いてから附属学校園を何度か訪問しました。その際、附属学校園には教員向けの教育ビジョンや目標もあってもいいのではないかと感じました。例えば、「確かな授業力」、「豊かな学級経営力」、「先進的な教育研究力」等です。

国立の教員養成大学・学部の目的は「優れた教員を育成」することです。それに附属する学校園は、教育実習や教育研究を通じて、その目的を追求する必要があります。また、附属学校園の使命は「我が国や地域の教育をリードし、良きモデルを示す」ことです。これは、教員や教員志願者の日々の研鑽や切磋琢磨の中から、そして、その姿に共感し、共鳴する子どもや保護者の支えの中から、果たされていくものです。

こうした原点を踏まえ、附属学校園で具体的な改革の取組を進め、少しでも多くの学校や教員にその成果を共有することができればと考えています。文部科学省では、全附連とともに、この改革と周知に全力を尽くしてまいりますので、どうぞよろしくお願い致します。



全国国立大学
附属学校連盟
理事長 藤原 嘉文
（山梨大学教育学部附属中学校校長）

平成30年度全附連理事長を務めることになりました藤原です。どうぞよろしくお願ひ致します。皆さんもご存知のように、昨年8月「教員需要の減少期における教員養成・研修機能の強化に向けて」国立教員養成大学・学部、大学院、附属学校の改革に関する有識者会議報告書」が出され、附属学校園についても様々な観点からの改革が求められていました。これについて全附連は昨年、全国の附属学校園に向けて調査を行いました。その中で、組織改革、教育実習の拡充、教職大学院との連携、研

附属の大きな成果を 客観的に示せるように

附属学校園はこれまで優れた取り組みを実践し、地域への貢献を「独りよがり」ではなく、しっかりと周りの皆さんからも認められていると自信を持って客観的に示すことができるかどうか、これが最大の鍵ではないでしょうか。全附連はこの点を念頭に置いて活動していきたいと思っております。皆さんご支援よろしくお願ひ致します。



全国国立大学附属学校
PTA連合会
会長 呉本 啓郎
（大阪教育大学附属高等学校平野校舎）

不変の使命と 時代に応じた使命

その学術的な特性や少子化などと合わせて附属学校の母体である教員養成系大学・学部は、ことさら厳しい環境にさらされています。そして、その波は附属学校にも押し寄せています。昨今の附属学校に対する様々な議論はここが原点です。そのような中、連合会では「子どもたちとこの国の未来のために」をスローガンに掲げ、さまざまな活動を通じて、各単位PTAとともに、この問題の唯一の根本的解決手段と考える附属学校の「改革」と「周知」を支援しています。子どもたちや、さらにその子どもたちが生きるこの国の未来のために、これからも附属学校がさらに輝き続けるよう、両輪の使命感をもって活動していきたいと考えます。今後とも、何卒、ご理解、ご協力とともに、ご指導、ご鞭撻を賜りましたら幸いです。

平成30年度 全国国立大学附属学校PTA連合会 役員・理事・監事・顧問・評議員構成

Table showing the organizational structure of the PTA Union, including roles like 直前会長, 会長, 専務理事, 事務局, and various committees such as 委員会, 特別委員会, and 顧問.

Table listing regional representatives (評議員) for various areas: 北海道地区, 東北地区, 関東地区, 北信越地区, 東海地区, 近畿地区, 中国地区, 四国地区, and 九州地区.

平成30年度 委員会活動

総務委員会

- List of activities for the General Affairs Committee (総務委員会), including general duties, meeting arrangements, regional exchange, and financial support.

財務委員会

- List of activities for the Finance Committee (財務委員会), covering accounting, insurance, and financial education programs.

研修委員会

- List of activities for the Training Committee (研修委員会), including PTA training and national conference participation.

広報委員会

- List of activities for the Publicity Committee (広報委員会), including information collection, publication, and website management.

特別支援委員会

- List of activities for the Special Support Committee (特別支援委員会), focusing on support for special needs schools and labor support.

〈特別委員会・実行委員会〉

全国大会実行委員会

- List of activities for the National Conference Executive Committee (全国大会実行委員会), including coordination and implementation of the conference.

戦略的活動特別委員会

- List of activities for the Strategic Activities Special Committee (戦略的活動特別委員会), including school reform information and strategic publicity.

平成30年度 活動基本方針

全国国立大学附属学校PTA連合会

全国国立大学附属学校PTA連合会(以下、連合会)は、全国56の国立大学法人に設置された幼稚園49園・小学校70校・中学校71校・義務教育学校2校・高等学校15校・中等教育学校4校・特別支援学校45校、計256校園の置かれていた現状と求められる使命を十分に理解した上で、その絆とスキルをリットを生かし、子どもたちの学習環境の充実と安心・安全の確保、さらには附属学校の発展、国立学校としてこの国の未来を見据えた日本の公教育の振興に寄与することを目的としてPTA活動の実践と研鑽を推進する。

また、全国国立大学附属学校連盟(以下、連盟)とともに、日本教育大学協会をはじめとする諸団体と連携しながら附属学校および附属学校を設置する国立大学法人をサポートし、附属学校の持つ独自性や創造性、社会的使命、存在意義、現状などを、それぞれの地域社会および全国的に発信することにより広く世の中の理解と支援が得られるよう積極的な活動を展開する。

1 共有、対話による理解
附属学校の果たすべき使命である日本の公教育を支える国の拠点校、地域のモデル校としての役割について、学校をサポートすべくPTAが参画し研究実践することで得た情報を会員相互で共有するとともに、連合会はその貢献度を各関係官庁や諸団体に広く訴えていく。また、各学校PTAがそれぞれの学校で直面する課題を解決するための一助として設置者である国立大学法人とのさらなる連携と対話を提唱する。

2 附属学校PTA活動の活性化支援と各組織の相互連携
子どもの成長過程に応じた教育の在り方、学習環境の充実と安全の確保、附属学校を取り巻く諸問題などへのPTAの関わり方を実践研究し、その成果や課題を共有、議論するための研修大会を開催し連合会、連盟と各学校PTAとの絆をより強く保つ。また、全国各地区会活動を有機的に支援し

連盟との協働による活動の活性化を図る。

3 対内および対外への広報活動の強化
各学校PTAがしっかりと子どもたちとそれぞれの学校に寄り添い有意義な活動ができるようその活動のヒントとなるようなPTA活動の事例および情勢などを全国の附属学校および各学校PTAに発信し情報共有の強化を図る。また、附属学校がさらに広く世の中の理解と支援が得られるようマスメディアや関係諸機関に対し積極的な広報活動を展開する。さらにはICTを活用した情報交換、共有など、連合会が主体となつてその運営強化を図る。

4 「共生社会」の推進
連合会では特別支援教育に対する理解と連携を進める諸活動の推進を掲げ、様々な取り組みを継続してきた。連合会はこれからも校種を超えた絆を育て、多様な個性を持つ仲間との相互理解を育む活動を推進および発信する。また、自他を共に尊重する態度・能力の育成、自己有用感・自己肯定感の育成を目指した活動を推進しインクルーシブ社会および一億総活躍社会の実現の牽引に努める。

5 国の目指す教育改革の先駆者として
国の目指す教育改革の先駆者たる附属学校のPTAとして、連合会は土曜日や放課後の有効活用ならびに外部人材や資源を発掘し子どもたちの新しい学びの環境を創造することを提唱する。また、子どもたちの将来が生まれ育った環境によって左右されることのないようその現状を調査研究および実践し、有効な対策と教育を通じて貧困が連鎖することなくすべての子どもたちが夢と希望を持って成長していける社会の実現を目指した活動を推進する。さらには学校の内外を問わず子どもたちの安心・安全を確保するため防犯・防災に関する教育や活動および有害なIT環境の問題から子どもたちを守る活動を推進する。

会長 呉本啓郎

役員・委員長・監事・顧問・地区会長の活動方針

 <p>井上 恒治 直前会長 前任会長としての職務経験を活かし、業務全般について会長の諮問に応じ、連合会の更なる発展のため全力でサポートさせていただきます。</p>	 <p>神余 智夫 副会長(総務・特別支援・広報委員会担当) / 戦略的活動特別委員長 有識者会議を受けて附属学校に改革の波が来ています。戦略的活動特別委員会は、この国の未来を拓く附属学校を戦略的に支えます。</p>	 <p>板倉 雄一郎 副会長 (財務・特別支援委員会担当) 財政教育・金融経済教育プログラム、カンガルーシップ活動助成金事業など全附P連の活動にご理解とご協力をお願いいたします。</p>	
 <p>三浦 享 副会長(広報・研修委員会担当) / 全国大会実行委員長 連合会が目指す附属学校の「改革」と「周知」、そして単P振興を後押しすべく、全国研修大会と各種広報活動の充実を図ります。</p>	<p>1年間、何卒、宜しくお願い申し上げます。</p> 		 <p>大竹 昌士 専務理事(財務・研修委員会担当) 今年度も連合会で行う事業を推進していくとともに、関係省庁や諸団体との連携を深め附属学校での取り組みを、さらに充実して参ります。</p>
 <p>萩原 清明 総務委員長 / 近畿地区会長 理事・地区会長として、変化を嘆くより、変化を恐れることなく可能性に満ちた未来を、そして次世代に託していく為の活動を行います。</p>	 <p>宮永 尚 研修委員長 第9回全国大会が参加者の皆様にとって実りある研修会になるように、また、情報共有できる場になるように企画運営していきます。</p>	 <p>平岡 昌純 財務委員長 会計・財務の管理業務だけでなく、財政教育プログラムの更なる普及促進と金融経済教育プログラムの改良及び普及を進めていきます。</p>	
 <p>谷田部 秀男 特別支援委員長 カンガルーシップ活動、あいサポート運動などの活動を通して子どもたちの豊かな未来のため、全力でサポートして参ります。</p>	 <p>鈴木 信雅 監事 全附P連の活動も年々多岐にわたり、かつ重要さを増してきております。日々の活動が報われ、より有意義となるよう監査業務に努めてまいります。</p>	 <p>北島 一人 広報委員長 / 戦略的活動特別委員会副委員長 附属学校内外に対し「正確な情報・見識の周知」を実現させるため、戦略的かつ丁寧な広報活動に努めて参ります。</p>	
 <p>大倉 宏治 監事 今年度監事を務めさせていただきます。監事の役割も年々責務が増しております。職業専門家の経験を活かし微力ながら尽くして参ります。</p>	 <p>鎌田 城行 顧問 「公教育を支える」。全附連の使命を果たすため、戦略的活動特別委員会が立ち上げられました。微力ながら尽力邁進する決意です。</p>	 <p>小塚 泰博 顧問 全附P連で培った理事4年間の経験を生かし、特に今秋の全国大会がさらに実り多い会となるよう、全力を尽くしてサポートいたします。</p>	
 <p>竹川 裕之 顧問 今年は強力な顧問団の一員として、豊かな経験と知識、そしてチームワークの良さで、全附P連の皆様を裏から支えます。</p>	 <p>服部 直毅 北海道地区会長 北海道地区は1大学4キャンパス11校園です。各校間の距離は離れていますが、思いを1つにして子どもたちとこの国の未来のために活動してまいります。</p>	 <p>安村 俊己 顧問 全附P連の活動に参加する機会をいただけたことに感謝しつつ在京の顧問としてできる限りの業務を行います。</p>	
 <p>岡部 太郎 顧問 附属特支を卒業し福祉就労する子どもの保護者として、特支委員会活動及び校種を超えた附属の総合力を生かした活動を支援します。</p>	 <p>桐生 利勝 北信越地区会長 北信越地区大会では「対話」と「交流」に重きをおき、各校園の特色の周知を変革へと繋げ、将来的に持続可能なネットワークの構築を目指します。</p>	 <p>志賀浪 健 東北地区会長 東北は広いせいもありなかなか集合するにも大変な部分もありますのでコミュニケーションを密に活動していければと思います。</p>	
 <p>安藤 拓郎 関東地区会長 附属学校の良さを、広く、より良くアピールできるよう1年間微力ながら頑張っていこうと思っていますので宜しくお願いします。</p>	 <p>山口 和行 四国地区会長 四国4県の附属学校園が公共性を持ち、地域のモデル校としての貢献や役割を果たせる為、より良いサポーターとして精一杯活動をさせていただきます。</p>	 <p>岡本 達明 東海地区会長 本年度、東海地区は「共生社会の到来に向けて」をテーマに、子供の成長の段階に応じた社会との共生、様々な立場の人たちとの共生を考えます。</p>	
 <p>三浦 陽子 中国地区会長 みんなが輝く社会に向けて子どもの未来を応援することを主題に活動を進めてまいります。11月の広島大会への皆様のご参加をお待ちしています。</p>	 <p>薬真寺 哲也 九州地区会長 子どもたちの未来のために「九州から改革の風を！」附属学校園の社会的・経済的資産となる同窓会、経済同友会、政治連盟を起ち上げます。</p>		

附属学校連絡協議会 開催

平成30年度総会に先立って、6月2日(土)9時45分からお茶の水女子大学講堂に於いて、文部科学省、日本教育大学協会、全附連盟の方にもご参加いただき、附属学校連絡協議会が開催されました。その中で「国立教員養成大学・学部、大学院、附属学校の改革に関する有識者会議」の報告書にいかに対応してゆくかの議論がなされ、「改革へ向けて」と題して、4つの学校園から事例報告がありました。



新潟大学教育学部 附属長岡校園

附属長岡校園では、附属学校の存在意義が厳しく問われる中、幼小中の教員が一体となって改革に取り組んでいきました。30年以上続いている幼小中合同の大運動会や、校種をまたいで授業実践の他、文科省指定を受けた教育研究を行っており、深い連携の下、取組を進めています。

昨年8月の有識者会議報告書を受け、新しい附属校園の在り方について学部との協議や校園経営会議を重ね、大学本部、学部も文部科学省と意見交換を行いました。今年2月に、北信越地区の勉強会を長岡で実施したこともよい契機となりました。そして、附属長岡校園は幼小中が一つの敷地にある条件を生かし、①12年の一貫教育を中核に、②

幼小中の連携で進める 附属長岡校園の改革

地域の教員のための多様な研修、③時代をリードする研究開発、④地域の課題に向き合った取組、を今後の方向性の柱としました。勉強会を通して明らかにした課題は、附属校園が示す方向性が、県教委や地域のニーズと合致しているのか、また、大学の教員養成や研究において、教育委員会等の要望を反映させる役割を附属校園が果たしているのか、ということでした。これらを受け、今年度は3つの取組を始めました。それは、①附属校園がある新潟県中越地域の10市の教育長と附属長岡校園の役割や期待すること等についての懇談、②研究会参加者アンケートの工夫に加え昨年度の参加者への事後アンケート、③研究会での新たな



附属長岡校園と4つの方向性

附属中副校長 柳沢 学

金沢大学 人間社会学域 学校教育学類 附属小学校

本校が考えている改革は、本校および地域の現状問題から発した改革です。まず本校の問題を明確にすることから始めました。問題点は「障害のある児童への対応」「心理社会的要因により(生きにくさ)のある児童への対応」「二次的な問題(いじめ・不登校・生活不活発病)への対応」「保護者からのクレームや相談への対応」「県内公立学校との教育課題の共有」「教員の力量向上」の6項目にまとめられました。そこから現状問題と地域教育のニーズを踏まえて次のような改革に向けた5つの骨子を策定しました。①学校組織・運営の見直しと業務削減 ②通級指導教

現状問題から発した改革

室の設置と特別支援教育の研究 ③異年齢集団の教育効果の研究 ④外国人の子どもへの教育 ⑤公立校との研究協働と人事交流です。この5つの骨子は①を中核とし、教員と児童が十分に関われる時間の確保をすすめ、②から⑤の改革についてはできるものは同時並行して、内容を関係付けながら進めることを考えています。

この改革をすすめるため平成二十九年度の九月より計画し行動し始めています。中核となる①の改革につきましても今年度より、効果的・機能的な学校運営体制作りとして校内組織の見直しや校内会議の整理を、教職員の業務改善として出勤管理システムの導入

校長 盛一 純平

「改革へ向けて…」 事例報告 紹介

大阪教育大学 附属平野地区五校園

大阪教育大学附属校園のうち、平野地区には幼・小・中高・特支の五校園がそろうている。平野五校園では、「国・地域の教育界への貢献」「大学の教員養成や研修等への貢献」「地域住民への貢献」を果たすため、連携しながら様々な取組を進めている。

大阪教育大学附属平野地区五校園 の連携と改革

「国・地域の教育界への貢献」として、「平野五校園共同研究」や「教員研修会」を通して成果の普及に努めている。「平野五校園共同研究」は全体テーマ「生涯発達の視点に基づいた校種間連携一環教育」のもと、現在第4期(9年目)を迎えている。共同研究では、各校園の研究主任や正副校長が隔月集まって研究推進に向けた検討を重ねるとともに、年3回全教員が集まり、大阪教育大学の3名の教員も迎えながら研修やワーク

ショップ、協議等を行っている。9年間の取組により教員間の交流の機会が増え、協働できる風土が醸成するなどの効果が見られた。今後は研究成果が公立学校のニーズに即し活用されること、地域の教員も参加できることなどをめざしている。一方、各校園で実施する「教員研修会」では、全国や地域の教員に参加をよびかけ、各校園の教育実践の成果等について研修や情報交換を行っている。なかには公立学校の教員研修の一部として活用されている例もある。

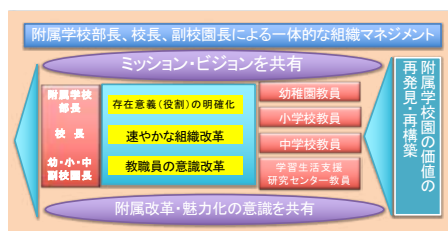
副校長 堀川理介

島根大学教育学部 附属学校園(幼・小・中)

島根県は、人口46番目、超少子化、超高齢化が進んでいる県です。また、今後10年の間に、公立小・中学校の約40%の教員が退職し、教員の年齢構成も大きく変わります。一方、全国の附属学校園の存在意義が問われ、厳しい指摘があります。こうした地域の状況や附属学校園の課題を冷静に謙虚に受け止める、地域になくてはならない学校園としての改革を、確実に進めていく必要があります。

私たちの成果は 地域が変わること

本学校園では、存在意義を明確にし、課題の解決を図るために、様々な改革と魅力化に取り組んできました。その一端をお伝えします。教員一人一人が、組織としての公共性、公益性をいかに高めることができるかという意識を持ち、その実現のための行動につなげることが重要です。全ての教員がイメージしやすい言葉で、附属学校園の



校長 齋藤 英明

H Pで公開する形にしました。また、学部教員と連携した定期的な研修会(平成30年度は26回の開催予定)や附属学校園を活用した県の初任者研修会の開催等、地域の教員研修校としての機能強化を図っています。これからの附属学校園の魅力が発揮されるためのチャレンジを続けていきたいと思います。

文部科学省初等中等教育局長の柳澤です。昨年度まで3年間、国立教員養成大学や国立大学附属学校を担当する高等教育局大学振興課教員養成企画室長を務めておりました。現在は、国立大学やその附属学校の教員にとどまらず、国公私立大学や教育委員会等における教員の養成・採用・研修に関する仕事に携わっています。関係の深い組織として、茨城県つくば市にある独立行政法人教職員支援機構（2017年4月に教員研修センターから改組）があり、附属学校の教員の皆様の中には、同機構での中央研修等を受けた方もおられると思います。

教員養成企画室を離れた立場として半年近くが経ち、附属学校について改めて強く感じることは、附属学校は「動く」ことが強く期待されている存在だということです。現在担当している教員の養成・採用・研修に関する制度の改正や事業の実施等の仕事は、それを率先して実質化していただける学校等があつてこそ、効果が確実に現れ、全国に浸透していきます。文部科学省から見て、附属学校をはじめとする、時代の変化に柔軟に対応して率先して動いていただける学校は、大変ありがたく頼りになる存在であると改めて感じます。また、全国の大抵の学校にとつても、先進的に動いて好事例を示してくれる附属学校に対する期待は非常に大きいと思います。

国立大学附属学校の教職員及びPTAに期待すること



文部科学省初等中等教育局 教職員課 課長 柳澤 好治 様

は先進的な教育研究のために多忙である、ということだと思います。しかし、この3年間に見聞きした附属学校の様子や、大学・公立学校・教育委員会・PTA関係者等との意見交換を通じて感じたことは、附属学校が言う「先進的な教育研究」が、実際にはあまり活用されていないため、結果的に、「先進的」と誇れる成果になっていない例が多いということです。なぜ「国立」大学の附属の学校があるのか。それは、その学校の成果が広く国民に還元されることが期待されるからです。

もちろん、各附属学校がすべて全国レベルの好事例を示せるに越したことはありませんが、現実的にそれは困難である以上、まずは各附属学校が存在する地域の課題への対応から存在意義を発揮すべきです。そのためには、最低限、地元の教育委員会が示す地域の

PTAの皆様には、各会員が学校以外のフィールドを持ってもらえるという少し離れた立場から、自分の学校が、先生方の限られた労力を本当に効率よく子どもの教育に投入した運営ができていないか、しっかりと見ていただきたいと思います。そして、例えば業務のスクラップやスリム化の仕方、教員の労力を最適な活動に投入するためのノウハウ、そこで浮いた資源を活用した子どもたちへの有効な指導方法などを、近隣の学校が活用しやすいわかりやすいモデルとして示せているかをチェックいただきたいと思います。それこそが今の時代の附属学校に期待される役割であり、附属学校の存在意義について非常に厳しい世論がある中で、附属学校を残し、発展させるために大切な動きだと思えます。

ただし、学校が周囲の抵抗を押し切って改革を進めることは容易ではありません。元教員等から消極的な反応があり得る中で、学校には相当の覚悟と時間が必要で、そのようなチャレンジをぶれずに支え続けてくれる応援団も必要です。PTAの皆様の中には、思いや熱意が強いあまり、学校の方針とぶつ

かってくるケースもあるようですが、学校が「先進的」とは対極にあることに気付かない、あるいは気付いても改められない学校や、それを指導できない国立大学が、地域から支えてもらえないでしょうか。

このような例はごく少数であるとしても、どの学校にもそれなりに改善を要する課題は必ずあり、不測の検証や見直しが必要で、しかし、校長・副校長の中には、「自分の学校は何ら問題なくやれている」、「有識者会議報告書の指摘事項は我が学校や地域には合わないから特に対応する必要がない」など、せっかくな課題を洗い出して改善するチャンスあるいはヒントとも言える指摘に対して、関わることを意図的に避けているように見える反応の方もおられます。

教育課題や教育行政の長期計画等と実際にリンクした取組をすることが有効です。それにより、その取組の存在意義が明確になりますし、地域や行政の理解や支援も得やすくなります。そのような基礎を確実に固めつつ、地域の公立学校等にとって使いやすい、教育課題の解決のための汎用性のあるノウハウを提供することにより、附属学校が陥りがちな、「本当はニーズがない研究」や「高度だが使えない研究」に

附属学校の最大の課題は、先生方が費やしている膨大な労力に見合うだけの評価を世間から必ずしも得られていないというギャップだと思います。設置主体である大学とも連携しつつ、労力を費やすべき対象をゼロベースで見直した上で、本当に必要なことに力を振り向けることが必要です。

このような例はごく少数であるとしても、どの学校にもそれなりに改善を要する課題は必ずあり、不測の検証や見直しが必要で、しかし、校長・副校長の中には、「自分の学校は何ら問題なくやれている」、「有識者会議報告書の指摘事項は我が学校や地域には合わないから特に対応する必要がない」など、せっかくな課題を洗い出して改善するチャンスあるいはヒントとも言える指摘に対して、関わることを意図的に避けているように見える反応の方もおられます。

最後に、改めて附属学校の教職員及びPTAの皆様に対する熱い期待を申し上げます。このような状況に対して、とりわけ

切った改革を進めることは容易ではありません。元教員等から消極的な反応があり得る中で、学校には相当の覚悟と時間が必要で、そのようなチャレンジをぶれずに支え続けてくれる応援団も必要です。PTAの皆様の中には、思いや熱意が強いあまり、学校の方針とぶつ

かってくるケースもあるようですが、学校が「先進的」とは対極にあることに気付かない、あるいは気付いても改められない学校や、それを指導できない国立大学が、地域から支えてもらえないでしょうか。

このような例はごく少数であるとしても、どの学校にもそれなりに改善を要する課題は必ずあり、不測の検証や見直しが必要で、しかし、校長・副校長の中には、「自分の学校は何ら問題なくやれている」、「有識者会議報告書の指摘事項は我が学校や地域には合わないから特に対応する必要がない」など、せっかくな課題を洗い出して改善するチャンスあるいはヒントとも言える指摘に対して、関わることを意図的に避けているように見える反応の方もおられます。

このように、改めて附属学校の教職員及びPTAの皆様に対する熱い期待を申し上げます。このような状況に対して、とりわけ

切った改革を進めることは容易ではありません。元教員等から消極的な反応があり得る中で、学校には相当の覚悟と時間が必要で、そのようなチャレンジをぶれずに支え続けてくれる応援団も必要です。PTAの皆様の中には、思いや熱意が強いあまり、学校の方針とぶつ

かってくるケースもあるようですが、学校が「先進的」とは対極にあることに気付かない、あるいは気付いても改められない学校や、それを指導できない国立大学が、地域から支えてもらえないでしょうか。

最後に、改めて附属学校の教職員及びPTAの皆様に対する熱い期待を申し上げます。このような状況に対して、とりわけ

切った改革を進めることは容易ではありません。元教員等から消極的な反応があり得る中で、学校には相当の覚悟と時間が必要で、そのようなチャレンジをぶれずに支え続けてくれる応援団も必要です。PTAの皆様の中には、思いや熱意が強いあまり、学校の方針とぶつ

かってくるケースもあるようですが、学校が「先進的」とは対極にあることに気付かない、あるいは気付いても改められない学校や、それを指導できない国立大学が、地域から支えてもらえないでしょうか。

最後に、改めて附属学校の教職員及びPTAの皆様に対する熱い期待を申し上げます。このような状況に対して、とりわけ

平成29年度 全附P連表彰 紹介

子どもたちの余暇を充実させる

子育てしながらでも仕事をしたい、という保護者のニーズが高まり、本校の職員を含む道南の障がい児者、関係の職員や保護者らが平成26年「放課後等デイサービス事業所ガイドブック」を作成しました。その後、卒業した子どもたちの余暇の過ごし方について課題意識が高まってきました。そこで、本校PTAが中心となり、障がい児者が、家庭以外で余暇を過ごす場所について、情報を共有しようという主旨のガイドブック作成がスタートしました。保護者や教職員が各種団体を取材し、利用対象者や利用時間などを調査し、原稿を書きためてA4版24ページにまとめました。その原稿は、卒業生が動く地域の共同作業所へ印刷を依頼し、300冊の「よかしえんガイドブック」の作成を通じ、余暇の充実の必要性、地域資源の活用への意識が高まってきました。さらに卒業後の仕事だけではなく、余暇を含めた生活を広くイメージするきっかけになりました。今後は保護者と学校が一緒に社会の動きを敏感にキャッチし、地域の特別支援教育の発展に向け取り組みを続けていこうと思えます。



よかしえんガイドブック



会長賞受賞を取り上げた新聞記事

よかしえんガイドBookの作成

本校の保護者間では、「よかしえんガイドブック」の作成を通じ、余暇の充実の必要性、地域資源の活用への意識が高まってきました。さらに卒業後の仕事だけではなく、余暇を含めた生活を広くイメージするきっかけになりました。今後は保護者と学校が一緒に社会の動きを敏感にキャッチし、地域の特別支援教育の発展に向け取り組みを続けていこうと思えます。

表彰者一覧	
会長賞	北海道教育大学附属特別支援学校 父母と先生の会 保護者と教職員による「よかしえんBook」作成
事業部門 優秀賞	富山大学人間発達科学部附属幼稚園 みどり会 みどり会にこここ工作 (スマイルフェスティバル2017)
	奈良教育大学附属小学校 附属小学校PTA 山焼きを見る会の運営
	広島大学附属幼稚園 木いちこの会 森とともに ～つながりを広げる子を育む～
	宇都宮大学教育学部附属中学校 父母と先生の会 『親子サマーキャンプ』 ～今こそ国立大学附属学校の特性を活かそう～
	奈良教育大学附属中学校 育桜会 三附属実践交流会 『幼・小・中PTA合同ならまちフィールドワーク』
	福島大学附属中学校 父母と教師の会 保護者による授業プロフェッショナル ～仕事の流儀～
組織改革部門 優秀賞	奈良教育大学附属小学校 附属小学校PTA 保育ボランティアによる見守り
	大分大学教育学部附属小学校 附属小学校PTA PTA活動の発展を目的とした組織・活動改革
	弘前大学教育学部附属中学校 父母と教師の会 一部会員による活動から全員参加型へ
オリンピック・パラリンピック関連部門 優秀賞	筑波大学附属大塚特別支援学校 特別支援学校PTA ドッチビーを楽しもう
	2017年絵画コンクール主管 上越教育大学附属小PTA



財務省大臣官房地方課課長補佐
上田 稔市様
(肩書は、本年6月末日現在)

全附連と財務省の連携による「財政教育プログラム」は、本年六月、三歳の誕生日を迎え、年間一三〇校以上（公立・私立含む）で実施していただけるほどに大きく成長しました。
目をキラキラと輝かせながら真剣に課題に向き合い、仲間との議論を通じて自分たちなりの答えを見出そうとする姿、そし

《財政教育プログラム》 「未来」を考えるきっかけを

て、意見を堂々と述べ合う子どもたちの姿を見るにつけ、わが国の未来を担う子どもたちの頼もしさを感じています。
選挙権年齢が18歳に引き下げられた現在、未来を生きる子どもたちとともに財政について考えることは私たち大人にとっても意義深いものと考えております。
子どもたちとこの国の未来のために、今後より良い授業をお届けできるよう取り組んでまいります。変わらぬご支援をいただければ幸いです。

教育プログラムの紹介

現代社会では、誰もが、金融との関わりを持つことは避けられない状況となっており、少子高齢化の進展、成年年齢の引下げなどの環境変化が進む中で、若い時期から、金融に関する正しい知識を習得する機会を持つことは重要です。一方で、正しく学習できる機会が限られ、適切な教材がないといった課題が

あります。
こうした課題に対応するため、本年4、6月にかけて、小・中・高それぞれの附属学校で試行的に授業を実施する機会を頂戴しました。授業後の振り返りでも、有益かつ前向きなご意見を頂戴するなど、今後の検討に向け、大変有意義な機会となりました。全附P連をはじめ、ご協力いただいた関係者の皆様には、この場を借りまして、改めて御礼申し上げます。引き続き指導をお願いいたします。



金融庁総務企画局政策課課長補佐
本田 幸一様

《金融教育プログラム》 金融経済教育の授業実施

あります。
こうした課題に対応するため、本年4、6月にかけて、小・中・高それぞれの附属学校で試行的に授業を実施する機会を頂戴しました。授業後の振り返りでも、有益かつ前向きなご意見を頂戴するなど、今後の検討に向け、大変有意義な機会となりました。全附P連をはじめ、ご協力いただいた関係者の皆様には、この場を借りまして、改めて御礼申し上げます。引き続き指導をお願いいたします。



鳴門教育大学学長
山下 一夫氏

再発見！「附属の魅力」

まず何より大事なことは、子どもが来たい、来て良かった、と思える学校であることです。同様に、保護者が行かせたい、行かせて良かった、と思える学校かです。しかし、これだけでは附属学校の存続は厳しい状況です。地域の学校、教育委員会、さらには全国の学校のモデルとなり、役立つ存在でなければなりません。ここでは、本学の取組の一端をご紹介します。少しでも附属学校の改革にお役に立てればと願っています。
2008年度より、幼・小・中・特別支援の各附属学校の校長は大学教授ではなく、専任校長を置き、大学の附属学校部長が統括することになりました。紆余曲折はありましたが、この部長にすべてを任せるのではなく、学長、理事等の大学執行部が部長（現在、副学長）と一体となることにより、大学の方針の下、大学と附属との連携、附属学校間の連携がとれるようになりました。さらに、執行部と保護者会の代表との懇談会、学長による保護者会での講演会など、大学と保護者会との連携も密になるように努めています。ちなみに、大学執行部、校長、保護者会代表との懇談会は有意義なものです。

鳴門教育大学における三位一体改革

まず何より大事なことは、子どもが来たい、来て良かった、と思える学校であることです。同様に、保護者が行かせたい、行かせて良かった、と思える学校かです。しかし、これだけでは附属学校の存続は厳しい状況です。地域の学校、教育委員会、さらには全国の学校のモデルとなり、役立つ存在でなければなりません。ここでは、本学の取組の一端をご紹介します。少しでも附属学校の改革にお役に立てればと願っています。
2008年度より、幼・小・中・特別支援の各附属学校の校長は大学教授ではなく、専任校長を置き、大学の附属学校部長が統括することになりました。紆余曲折はありましたが、この部長にすべてを任せるのではなく、学長、理事等の大学執行部が部長（現在、副学長）と一体となることにより、大学の方針の下、大学と附属との連携、附属学校間の連携がとれるようになりました。さらに、執行部と保護者会の代表との懇談会、学長による保護者会での講演会など、大学と保護者会との連携も密になるように努めています。ちなみに、大学執行部、校長、保護者会代表との懇談会は有意義なものです。

催される、研究発表会の中身が問われています。本学では、2012年度の頃より、附属の教員が発表者でその助言者が本学の教員であるというスタイルを止め、附属の教員と本学の教員が協力して研究発表を行い、それに対する助言者を教育委員会の関係者や他大学の教員等にお願いますようにしました。
本学はグローバル教育にも力を入れています。小学校英語教育を先導的に取り入れました。そして、オーストラリアの学校とテレビ会議システムを利用した交流や、短期のホームステイを児童生徒の家庭で受け入れていきます（写真）。また、国際協力機構（JICA）と協力し、海外の教育関係者の研修を大学で行っていますが、附属学校の児童生徒ともちろんのこと、公立学校の児童生徒とも、交流の機会を設けています。エリート校批判に、真摯に耳を傾けなければなりません。しかし、出る杭にならぬよう遠慮するのではなく、ありま



オーストラリアの児童と、ホームステイ先の附属の児童と保護者



新潟大学教育学部附属長岡中学校長
土佐 幸子氏

日本に附属学校があることの貴重さ

米国と比較して

明治期、日本では師範学校という国立の教員養成機関が全国に設立され、その実習校として附属学校が設立された。新制大学、さらに教育学部の発足などで変化はあったが、今、全国の各都道府県に国立大学附属学校園が256あり、実習校としての役割はもろろのこと、各地の、そして全国の教育拠点としてリーダー的役割を果たしている。附属学校の存在が議論される中、世界的な視野に立って附属学校の成り立ちを捉えてみると、違った側面が見えてくるのではなからうか。
例えば、米国を見てみよう。米国は州の自治権が強く、国立大学がないので、国立大学附属学校もない。有名大学の多くは私立であり、カリフォルニア大学などランキングに名前を連ねる州立大学は少数である。米国にもかつてノーマル・スクールという教員養成を担う州立の師範学校があった。多くの場合、ノーマル・スクールは現在の州立大学教育学部に改変されている。独自の附属学校はもっていなかったところが多く、例えば、1894年にマサチューセッツ州に設立されたローエル・ノーマル・スクールは、当時新設されたばかりの市立の小中一貫校を実習校とした。大学とその学校との連携は



米国シカゴ大学実験校

現在でも続いており、学生が実習や参観を行っているが、教育研究の拠点校という役割はない。米国で日本の附属学校に近いのは大学の実験校である。様々な校種の実験校が全米に散らばっており、新しい教育方法の実践の場、また学生の教育実習の場として機能している。例えば、1894年にジョン・デューイが設立したシカゴ大学実験校は有名だ。現在も幼稚園児から高校生まで約2000名の教育を担っている。米国の多くの実験校がシカゴと同様に、学習者主体の進歩主義的な教育を行う私立校であり、学力の高い子どもが、資源豊かな環境の中で学習している。
米国1国との比較であっても、日本の国立大学附属学校のような教育機関は存在せず、附属学校が貴重な財産であることがわかる。附属学校が、長年にわたって各地で優秀な人材を輩出する教育活動を行ってきたという、それだけでも米国にはない堅固な基盤である。さらに、全国的なネットワークで互いの情報共有を図り、日本の教育を牽引している。私たちは強い連携でこの附属の良さをもっと発信していきたいと思う。

平成29年度 全附P連助成金事業報告

助成金事業の中から、今年も特に推進して行きたい事業について、詳しく報告します。リスト中の各PTA活動は、一部全附連ホームページでも紹介しています。

高知大学教育学部附属小学校では、3～6年生を対象に若尾久氏（NPO法人いのちの教室代表）による「命の授業」を開催し、命の大切さ、いじめの問題性について学ぶと共に、同日に同じく若尾久氏により、保護者を対象とした講演会を開催した。

「命の授業」と「情報モラル講座」



同日に子どもたちと保護者が「命の授業」をテーマに学ぶことで、家庭内でのいじめ問題解消につながる「命の尊厳」についての会話のきっかけづくりを学んだ。

高知大学教育学部附属小学校は、3～6年生を対象に若尾久氏（NPO法人いのちの教室代表）による「命の授業」を開催し、命の大切さ、いじめの問題性について学ぶと共に、同日に同じく若尾久氏により、保護者を対象とした講演会を開催した。

11月から12月の土曜日午前中に、イベントプロデューサー、大分大学教育学部、理工学部の教授を招いて、講座・ワークショップを3回開催した。どの講座も子どもたちの学習意欲、知的探究心、科学に対する興味関心を高める事を目的にし、普段の授業では取り上げない内容で、子どもたちに豊かな経験を提供することが出来た。

サタスタ (Saturday Study Support)



第1回講座「イベントプロデューサーから学ぶアイデア発想法」講師・茅嶋信昭（ソフトファクトリー代表）
第2回講座「ブログラミング教室」講師・市原靖士 大分大学教育学部教授
第3回講座「カオスの科学」講師・末谷大 道長屋智之 大分大学理工学部教授

土曜・放課後活動事例紹介
大分大学教育学部附属中学校

いじめ防止プログラム助成金事業
平成28年度より、単位PTAが実施するいじめ防止に関する事業に対し助成を行っています。全附P連はこの事業を通じ、いじめ対策に関する取り組みが全国的に活発化していくことを願っています。

NO.	学校名	活動名
1	香川大学教育学部附属坂出小学校	PTAいじめ予防プログラム
2	大阪教育大学附属幼稚園	自己と他者を認め合う心をはぐむ地域交流プログラム
3	京都教育大学附属幼稚園	「ネットいじめから子供を守る 一家庭での役割」
4	岐阜大学教育学部附属中学校	PTAいじめ予防対策
5	鹿児島大学教育学部附属中学校	PTAいじめ対策活動
6	大阪教育大学附属平野小学校	親子で学ぼう！言葉と心のマネジメント
7	お茶の水女子大学附属小学校	ピースフルスクールプログラム講習会
8	熊本大学教育学部附属中学校	いじめ防止プログラム
9	奈良教育大学附属小学校	いじめ予防プログラム
10	高知大学教育学部附属小学校	保護者対象のいじめ予防に向けての研修会開催 ①平成29年度PTA全校研修会「命の授業」 ②いじめ防止に向けた情報モラル講座
11	金沢大学人間社会学域学校教育学類附属中学校	育友会保護者向けいじめ予防プログラム
12	福島大学附属小学校	第6学年地区別活動講師招聘授業、特別の教科道徳授業参観並びに第5学年保護者集会
13	新潟大学教育学部附属新潟小学校	文化教養委員会主催 LINE株式会社による講演会
14	静岡大学教育学部附属浜松中学校	いじめ防止プログラム

カンガルーシップ活動助成金事業
校種を越えて、子ども・教師・保護者が連携を持ち、障がいに対する「理解」を基盤とし「共生」を育む活動です。
助成金には『理解プロジェクト活動助成金』『共生プロジェクト活動助成金』『就労支援のための活動助成金』、発達障害、学習障害への理解を推進する『ネイバーサポート活動助成金』を実施しております。

NO.	学校名	活動名
1	福岡教育大学附属福岡小学校	1：校外学習 2：もちつき大会 3：冬野菜の栽培・収穫（販売） 4：クリスマス会 5：学習発表会
2	筑波大学附属大塚特別支援学校	出張カフェで老人ホームの方々、地域の皆さんにサービスしよう
3	愛媛大学教育学部附属特別支援学校	学校祭
4	鹿児島大学教育学部附属特別支援学校	ふとくフェスティバル
5	佐賀大学教育学部附属特別支援学校	学習発表会
6	滋賀大学教育学部附属特別支援学校	唐崎学区の人との交流～作業製品を使ってみよう
7	山梨大学教育学部附属特別支援学校	きりの子バザール
8	山形大学附属特別支援学校	すまいる祭り
9	愛知教育大学附属特別支援学校	友達をふやそう（岡崎市立愛宕小学校との地域交流）
10	大阪教育大学附属特別支援学校	PTAふようバザー
11	大阪教育大学附属特別支援学校	ふようタイム「地域・校内活動」
12	宮城教育大学附属特別支援学校	ふとくまつり
13	埼玉大学教育学部附属特別支援学校	父親の会主催夏休み親子レクリエーション
14	埼玉大学教育学部附属特別支援学校	父親の会主催の新年レクリエーション
15	群馬大学教育学部附属特別支援学校	学校の周りを花できれいにしよう
16	福井大学教育学部附属特別支援学校	児童生徒造形展 2018

NO.	学校名	活動名
1	愛媛大学附属高等学校	「みかんの家」交流作業
2	佐賀大学教育学部附属幼稚園	人形劇団トロッコ「三びきのこぶた」観劇
3	茨城大学教育学部附属特別支援学校	40周年記念事業&夏祭り
4	大阪教育大学附属幼稚園	サツマイモの苗つけ他計7イベント
5	宮城教育大学附属幼稚園	特別支援と幼稚園の交流会
6	宮城教育大学附属幼稚園	特別支援学校訪問
7	高知大学教育学部附属特別支援学校	第28回 附属まつり
8	愛媛大学教育学部附属特別支援学校	交流及び共同学習、バザーへの出店
9	京都教育大学附属幼稚園	五歳時 親子園外保育
10	京都教育大学附属幼稚園	親子鑑賞会
11	富山大学人間発達科学部附属幼稚園	七夕コンサート
12	滋賀大学教育学部附属特別支援学校	附小学校附特交流会
13	埼玉大学教育学部附属幼稚園	カンガルーシップ活動の意義の周知他計4件
14	愛知教育大学附属特別支援学校	サツマイモのつるさし・収穫会
15	大阪教育大学附属特別支援学校	交流及び共同学習
16	福島大学附属特別支援学校	4校園交流事業（40周年）
17	埼玉大学教育学部附属特別支援学校	歌とダンスのエンターテインメントショー
18	山形大学附属幼稚園	もっともっとなかよくなる

NO.	学校名	活動名
1	筑波大学附属大塚特別支援学校	進路に関する学習会/事業所等見学会
2	愛媛大学教育学部附属特別支援学校	進路に関する保護者学習会・職場懇談会・職場見学会
3	金沢大学人間社会学域学校教育学類附属特別支援学校	卒業後の就労や生活を考える
4	岐阜大学教育学部附属小学校	就労体験・見学
5	鹿児島大学教育学部附属特別支援学校	進路に関する勉強会
6	滋賀大学教育学部附属特別支援学校	PTA進路研修会
7	愛知教育大学附属特別支援学校	進路に関する学習会
8	埼玉大学教育学部附属特別支援学校	就労先開拓および施設見学
9	福井大学教育学部附属特別支援学校	①事業所見学会 ②福祉制度学習会 ③現場実習先見学会 ④進路に関する保護者学習会

NO.	学校名	活動名
1	愛知教育大学附属特別支援学校	特別支援教育公開セミナー
2	宮崎大学教育学部附属小学校	キッズサポーター会議「多様性のある子どもたちと向き合う」

土曜・放課後活動等助成金事業
附属学校園が行う土曜・放課後活動等に対して助成を行っています。これらの活動を通じて、子どもの貧困問題を起因とする学習機会の不平等是正を目指しています。多くの子どもたちが、多様な学習、文化やスポーツ、体験活動等の機会を得られるよう本事業を有効に活用して下さい。

NO.	学校名	活動名
1	京都教育大学附属幼稚園	園庭開放「親子で運動遊びを楽しもう!!」
2	佐賀大学教育学部附属幼稚園	育友会預かりの時間
3	東京学芸大学附属特別支援学校	土曜スポーツクラブ
4	神戸大学附属小学校	バザー&イベントフェスタ
5	香川大学教育学部附属坂出小学校	附属坂出小学校OYG
6	大阪教育大学附属幼稚園	保護者と園児の手による「土曜大工」活動
7	上越教育大学附属中学校	春・秋の親子環境整備事業
8	佐賀大学教育学部附属中学校	①大学の授業を受けてみよう ②親子ふれあい後援会
9	鳴門教育大学附属幼稚園	親と子の食育健康教室
10	岡山大学教育学部附属中学校	岡附エス・親子クリーンアップ作戦
11	岡山大学教育学部附属幼稚園	青桐会主催 奉仕作業・夏祭り・お月見
12	大分大学教育学部附属中学校	サタスタ (Saturday Study Support)
13	新潟大学教育学部附属特別支援学校	アフタースクール・すなやまクラブ
14	大阪教育大学附属高等学校平野校舎	体育館前の花壇整備と花の植え替え
15	神戸大学附属幼稚園	親子ふれあいの日
16	熊本大学教育学部附属特別支援学校	熊本大学教育学部附属特別支援学校PTAサークル活動
17	金沢大学人間社会学域学校教育学類附属特別支援学校	①さつまいも苗植え ②いくゆう夏まつり
18	鳥取大学附属特別支援学校	放課後体力づくりプログラム事業（放課後スポーツクラブ）
19	山梨大学教育学部附属特別支援学校	放課後活動
20	北海道教育大学附属札幌中学校	校舎環境整備
21	福岡教育大学附属小倉中学校	人権教育講演会
22	富山大学人間発達科学部附属幼稚園	①富山大学スマイルフェスティバル2017 ②父親の会「夏祭り2017」 陶芸体験教室（全2回） 第1回「お父さん・お母さんとねんどで遊ぼう！～陶芸教室～」 第2回「つくったお皿を使ってみよう！～白玉団子を食べる会～」
23	宮城教育大学附属幼稚園	
24	福岡教育大学附属小倉小学校	親子でふれあいDoing「引け！皆の力で勝利を引き寄せよう」 「親子で楽しく catch and throw」「親子でつこう！餅つき大会」
25	宮崎大学教育学部附属小学校	「宮大附属土曜講座」 PTA親子ふれあい活動 第1回 8/26（土）愛校作業 ～みんなで学校をきれいにしよう～ 第2回 12/9（土）親子木工教室 ～みんなで作ろう～
26	鹿児島大学教育学部附属特別支援学校	大学教員を招いての親子講座
27	奈良女子大学附属小学校	学年活動
28	山口大学教育学部附属山口小学校	学年活動
29	宮城教育大学附属中学校	上杉キャンパス奉仕作業
30	茨城大学教育学部附属特別支援学校	子どもの自立を助ける「ふよう親の会」
31	福島大学附属幼稚園	「放課後体操教室」[第17回夏祭り]
32	滋賀大学教育学部附属特別支援学校	放課後サッカー教室
33	北海道教育大学附属特別支援学校	なんか「やろう」会
34	熊本大学教育学部附属小学校	オープンスクール
35	福岡教育大学附属久留米小学校	①児童合唱 ②少年野球
36	愛媛大学附属高等学校	マイスターエチュード「未来の起業家プロジェクト」附属祭2017
37	愛媛大学教育学部附属小学校	マイスターエチュード「未来の起業家プロジェクト」附属祭2017
38	愛媛大学教育学部附属中学校	マイスターエチュード「未来の起業家プロジェクト」附属祭2017
39	山口大学教育学部附属光中学校	親子スポーツマッチ「東になって、かかってきなさい!!」
40	愛媛大学教育学部附属幼稚園	附属祭2017
41	宮城教育大学附属小学校	①みんなでつこう きれいな学校 ②みんなで聴こう すてきな音楽の調べ
42	熊本大学教育学部附属幼稚園	PTA預かり事業「楠の子活動」
43	鹿児島大学教育学部附属中学校	植物採集・岩石採集 名付け会
44	筑波大学附属大塚特別支援学校	ドッチビーを楽しもう
45	滋賀大学教育学部附属幼稚園	四校園まつり
46	愛媛大学教育学部附属特別支援学校	附属祭2017、農園整備
47	秋田大学教育文化学部附属幼稚園	親子で木育 DIY
48	横浜国立大学教育学部附属鎌倉小学校	オヤジの会による学期ごとのイベント (ペットボトルロケット・スポーツマッチ・お餅つき大会)
49	山口大学教育学部附属幼稚園	国際理解推進事業「園児と留学生のわくわくABC教室」
50	茨城大学教育学部附属幼稚園	親子で触れ合うスポーツ・文化事業 「親子音楽教室・スポーツ鬼ごっこクラブ」
51	山口大学教育学部附属光小学校	附属光スポーツ少年団、土曜スポーツマッチ
52	奈良教育大学附属小学校	親子プール 山焼きを見る会
53	高知大学教育学部附属特別支援学校	附属まつり・留学生と交流しよう
54	福岡教育大学附属幼稚園	課外活動「さつまいもの栽培」/「城山キッズ」
55	大阪教育大学附属平野小学校	学校で親子で遊ぼう「親子スポーツ教室&わくわくイベント」
56	群馬大学教育学部附属特別支援学校	楽しく踊ろう！奏でよう！みんなでつくり上げる八木節踊り
57	奈良教育大学附属中学校	放課後学習会
58	長崎大学教育学部附属特別支援学校	音楽教室、クリーンハイキング夏期合宿
59	東京学芸大学附属幼稚園小金井園舎	日本伝統行事継承プログラム「もちつき会」
60	福井大学教育学部附属特別支援学校	育友会ひまわりの会（親父の会）主催 親子ピザ焼き会
61	熊本大学教育学部附属中学校	PTA親子美化作業
62	北海道教育大学附属札幌小学校	父親委員会 環境整備（附属花プロジェクト他）
63	東京学芸大学附属世田谷小学校	青山会子どもクラブ
64	大分大学教育学部附属幼稚園	お話しボンの会（親子ふれあい教室）

上記各助成金の詳細については6月下旬に各附属学校園へメールにてご案内させて頂いておりますので、ご確認下さい。

全国国立大学附属学校教育後援会連絡協議会

報告



約100名の出席を頂いた総会の様子

平成30年度の全国国立大学附属学校教育後援会連絡協議会の総会が6月2日お茶の水女子大学にて開催されました。昨年10月の全国大会の折に設立された当会ですが、設立に奔走された久保眞司理事長が勇退され、私が理事長職を引き継ぐこととなりました。全国の学校園にある後援会ですが、その形態は様々で各会の会長様が不安に思うところもありつつ寄付金募集活動を行っているのが現状です。まず情報の共有化を図り、会員の皆様のお手伝いができるような連絡協議会であることを目指します。宜しくお願いたします。

理事長 小出 克元

あいサポート運動を全国へ!

あいサポート運動を全国へ展開していくためには、まずは講師となる「あいサポートメッセンジャー」を養成することが急務でした。そこで全附P連では、今年3月に理事・評議員を中心に「あいサポーター研修」(85分)および研修講師養成のための「あいサポートメッセンジャー講習」(3時間)を行いました。文部科学省、財務省からも参加者を得て、27名がメッセンジャーになりました。講習の中で、附属学校のリソースを活かした専門家との連携として、筑波大学附属大塚特別支援学校の森澤先生に、「知的障害児・

障がいを知り、共に生きる

全附P連では、今年も「あいサポーター研修」の実施校を募集いたします。奮ってご応募下さい。



あいサポートメッセンジャー講習

者への対応とそのサポート方法」について講義していただきました。これにより、全国9地区で「あいサポーター研修」が行えるようになりました。

(竹川裕之)

昨年の「国立大学附属学校のすべて」 発刊に続く第2弾!

国立大学附属学校の教育

10月初旬
全国一斉発売!!

昨年、発刊されたムック本『国立大学附属学校のすべて』は、みなさまのご協力のおかげで、好評とともに全国で発売され附属学校にとって大きな周知を得る機会となりました。

その実績から、このたび、第2弾『国立大学附属学校の教育』が発刊されることとなりました。

附属学校ならではの先進的、公益的・公共的な研究事例が発表される場となる予定です。

この発刊が継続され、附属学校の社会的使命、公共性・公益性がさらなる周知の機会を得るために、引き続きみなさまのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

全附P連PTA研修会 第9回全国大会

日程 9月28日(金)~29日(土)
場所 ハイアットリージェンシー東京

『子どもたちとこの国の未来のために~今、求められる附属の「改革」と「周知」~』をスローガンに、第9回全国大会を開催します。昨年、国立教員養成大学・学部、大学院、附属学校の改革に関する有識者会議の報告書が公表され、公私立とは異なる国立大学附属学校としての存在意義・役割・特色の明確化が求められています。国立大学附属学校として、公共性に基づいた「改革」と「周知」が求められている今、この大会で共に学び、情報を交換し、この国の未来について考察します。多くの皆様のご参加をお待ちしています。また、次号の『附属だより』で皆様に報告させていただきます。(宮永 尚)

9月28日(金)										
9:00	10:00	11:30	開会(12:30)	14:15	14:35	15:50	16:20	18:00	18:30	20:30
受付	オプションプログラム 教育後援会 基本セミナー	昼食	受付	開会行事 鈴木大地氏(筑波大)の スポーツが変える。未来を創る。	休憩	附属セミナー1	休憩	テーマ別分科会1~3 幼稚園部会 特別支援部会 教育後援会会長会	休憩	情報交換会

9月29日(土)									
8:30	9:00	10:30	10:50	閉会(12:45)	13:00	14:30			
受付	附属セミナー2	休憩	クロージングセミナー 茂木健一郎先生 国科学が見た、これからの学び、教育の可能性	閉会	オプションプログラム 幼稚園、特別支援 希望者対象 ランチミーティング	13:30 展示終了			

第8回
全国大会
の様子

発行所

全国国立大学附属学校連盟
全国国立大学附属学校PTA連合会
〒105-0001 東京都港区虎ノ門
1-2-29 虎ノ門産業ビル8F
全附連事務局
TEL:03-3591-2091
FAX:03-3591-2092
E-mail:jimukyoku@zenfuren.org
印刷:株式会社インテックス

編集後記

6月1日、梅雨入り前の爽やかなお天気のなか、総会を明日に控えたお茶の水女子大学講堂に昨年1・5倍ほどの厚さの総会資料が運びこまれました。この一冊に昨年の全附P連活動のすべてが詰まっている。

事実、全附P連、そして全国の附属学校PTAが昨年一年間、わが国の公教育の根幹を支える国立大学附属学校の在り方、PTAの在り方、そして子どもたちの未来を、この国の未来を考えた行動してきたこと、すべてが明確に記された1冊である。厚さや文字数の問題ではないことは明確。昨年1年間、アプローチは様々に、しかし全国の取組者、関係者が思いを一つにし、取り組んできた成果が詰まっていた。6月2日、総会当日。今、来年に配布される総会資料はまだ0ページ。

そして今年の全附P連の重要施策は「改革」と「周知」。

ただ活動・行動するだけではなく、今、附属学校に求められる「改革」を後押しするために、必要な情報や参考となる事例、新たな施策をタイムリーに、効果的に、そして地域や社会に正しく理解され、広く支持されるよう「周知」することが求められている。この一年間、総会資料の1ページのためだけに、新しい未来の1ページとなるよう、広報活動をさらに充実していく決意を新たにしたい。

(北島一人)

編集委員
委員長 甲斐雄一 筑波小
委員 関田博幸 東京学芸大
委員 北村博幸 北海道教育大
委員 片岡洋子 千葉小
委員 千葉一雄 東京工業大
委員 牧田秀昭 福井教育大
委員 高木勝昭 静岡教育大
委員 大井育代 鳴門教育中

全附P連
担当副会長 三浦 享 長崎小
担当副会長 神余智夫 香川出幼小中
委員長 北島一人 鳴門教育中
副委員長 中村裕治 北海道教育大
副委員長 宮崎秀夫 信州長野中

全国国立大学附属学校園の幼児・児童・生徒の保護者の皆様へ この保険は全国国立大学附属学校PTA連合会の団体保険です。

ただ今募集中!

カンガルー保険のご案内

平成30年度 中途加入受付中

任意加入制度

24時間補償

約50%割引
全国国立大学附属学校PTA連合会が窓口の団体契約なので、保険料が約50%割引です。
・団体割引: 30%
・損率率による割引: 25%適用

24時間補償
お子様を取り巻く様々なリスクに対応した安心のための24時間補償制度です。

簡単・便利!
・保険料のお支払は、便利な「口座振替方式」
・更新のお手続きは、更新の「自動更新」です。

保険期間 平成30年4月1日午後4時から平成31年4月1日午後4時まで1年間
※臨時にご加入いただけます。(お申込日にかかわらず、補償は平成31年4月1日午後4時に終了します。)
※ご加入ご希望の方は、取扱代理店までお問い合わせください。

加入対象者 ①全国国立大学附属学校園に在籍の幼児・児童・生徒
②本制度にご加入いただいた上記①の兄弟で、公・私立の幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校に通われている幼児・児童・生徒(ご加入時に満3歳以上から満18歳以下の方に限ります。)

加入手続き パンフレット送付の加入依頼書にご記入・ご捺印(銀行届出印)のうえ、返信用封筒にてご返送ください。

申込締切日 随時ご加入いただけます。(お手続きの翌月1日(午後4時)からの補償開始となります。)
※パンフレットのご請求、保険料につきましては、取扱代理店までお問い合わせください。

[引受保険会社] (幹事保険会社) 東京海上日動火災保険株式会社
(担当) 公務第二部文教公務室 〒102-8014 東京都千代田区三番町6-4 TEL:03-3515-4133 FAX:03-3515-4132 平成30年4月作成 18-T00410

全員加入制度 ※個人での加入はできません。

1 園児・児童・生徒、教職員の皆様のケガなどを補償する
園児・児童・生徒・教職員総合補償制度
(学校契約団体傷害保険、賠償責任保険PTA特約)

2 園児・児童・生徒、教職員の皆様が犯罪事故からお守りする
犯罪被害事故見舞補償制度
(傷害総合保険)

3 PTA活動に参加中のご両親・教職員の皆様のケガや賠償事故を補償する
PTA活動総合補償制度
(普通傷害保険PTA団体傷害特約、賠償責任保険PTA管理者特約、生産物特約)

保険期間 平成30年6月1日午後4時から平成31年6月1日午後4時まで
※「カンガルー保険(全員加入制度)」は全国国立大学附属学校PTA連合会を保険契約者、損害保険ジャパン日本興亜株式会社を引受保険会社とし、学校契約団体傷害保険、傷害総合保険、PTA団体傷害保険、賠償責任保険(PTA特約、PTA管理者特約、生産物特約)をそれぞれ組み合わせることで加入する補償制度のベトナムです。
※この広告は概要を説明したものと異なります。詳細はパンフレットをご覧ください。取扱代理店または損保ジャパン日本興亜までお問い合わせください。

[引受保険会社] 損害保険ジャパン日本興亜株式会社
団体・公務開発部 第三課 〒160-8338 東京都新宿区西新宿1-26-1 TEL:03-3349-9588 FAX:03-6388-0162 SJNK18-01501

カンガルー保険・取扱代理店のお問合せ先

この広告はこども総合保険団体契約の概要についてご紹介したものです。ご加入にあたっては、必ず「重要事項説明書」をよくお読みください。ご不明な点等がある場合は、代理店までお問い合わせください。

《北海道・東北・関東・北信越・四国地区》

株式会社 第一成和事務所
東京都中央区日本橋久松町11-6
日本橋TSビル 8F
☎ 0120-100-492

《東海・近畿・中国・九州地区》

海上商事 株式会社
東京都渋谷区代々木2-11-15
新宿東京海上日動ビルディング
☎ 0120-745-748